

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第124号 (2023. 7. 2-2023. 7. 9)

- ◆ 参加者：宮坂愛哲、藤井章、しまねこくん、片羽 aju、雲雀 mocha、
Tatsuo Kanase、ひつま、何となく短歌、syusyu、凧ちゅう、Tomo、
水の眠り、西脇祥貴、元さん、モリマサ公、おかもとかも、石川聡
温(ぬ)、抹茶金魚、石原とつき、Bon Si-jay(モンモン)、汐田大輝、
夏野ネコ、ダリア220、花野玖、流天、さし、佐竹紫円、むくみんマ
マ、岩瀬百、月硝子、しろとも、雲心、小沢史、みさきゆう、とひら
りゆうせん、短歌初心者、涼閑、donkey、crazy lover、涼、奥かす
み、輪井ゆう、まつりぺきん、かのん、蔭一郎、とるぼーる、菊池
洋勝、Iyutoppa、突波、黒穂2022、上崎、岡村知昭、西沢葉火、ゆり
のはな、雪上牡丹餅、はゆき咲くら、宮原凱、睦月ヨシ、東こ
ろ、萩原アオイ、鷺沼くぬぎ、馬勝、たろりずむ、雪の空360day
太代祐一、みや、snuddle、日下 昊、Tomoko、路地裏のくじら、とし、
草太郎、みおったかふみ、M*A*S*H、めたもん、森砂季、名大ぼち、
月波与生(七九名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

冷房のタイマーセットして通夜へ たろりずむ
山椒魚月刊ムーで知る歴史 馬勝
神社から TSUTAYA から更地から砂 おかもとかも
不登校だけと山椒魚だしな しまねこくん
学歴が違ふトマトとミニトマト しまねこくん
夏の花ひみつが増えてゆくばかり 東こころ
抜け道の対象年齢外となる おかもとかも
夕立と背中合わせに書く手紙 上崎
公園を吐き出す河豚やトロンボーン 抹茶金魚
三叉路のどこから来たか表藁帽 抹茶金魚

もしかして履いてないのか青葉闇 しまねこくん

遺品の中から避妊具 水の眠り

つぶやきながら葦になつてゐる動詞 ひうま

おにぎりの具はアルタイル塩多め しろとも

足首だけで触る夕風 岩瀬百

抱っこ拒否の猫を各自で用意せよ 抹茶金魚

三十路だと知ればなおさらプチトマト しまねこくん

何故にシエフは気紛れ半夏生 しまねこくん

木製であればぎりぎり風鈴か しまねこくん

カクカクと機械のやうな小鳥かな 宮坂愛哲

ささくれは小さい悪のことである 西沢葉火

饅頭のおんこの辺にある詩情 睦月ヨシ

罰として銘菓になつてもらいます 太代祐一

配列について葉っぱを刻みつつ 藤井早

紫に灼けて爛れてリンデロン 片羽雲雀

イシの木にしてやろうかと抱き締める Tatsuo Kanase

雄ですか雌ですか問へばちくりと刺すくらげ syusyu

秘宝館からは左脳薫る便り 西脇祥貴

夏も闇を溜め続け大社の森よ 石川聡

扇風機あたし空虚になつていく 汐田大輝

小暑過ぎアレだけだったと振り返る ダリア 220

梅雨晴間未読のメール読み返す 花野玖

あのころはすももの夢に朝寝する 流天

遠泳を笑顔で描く大人たち さー

言い訳に疲れ見上げる月涼し 佐竹紫田

SS増やして孤独感を足す 月硝子

裸身の蛾白繭誦すやジムノペティ 雲心

星合の夜ね子殺しのこの身にも 小沢史

いちにちのミュート外して傘の中 りゅうせん

声だけをさらつていった風、緑 涼閑

隠れたのマシマシ所望天の川 donkey

昭和を懐かしむ日本人 crazy lover

鉄板が火力強くて真っ黒け 涼

レインコートの花柄はくすむ晴れ 輪井ゆう

玄関でサーカス小屋が燃えている まつりぺきん

語らいの ソーダ水から 雨の音 かのん

空の上からりと成らず梅雨の晴 とるぼとる、

ほうたるの水で動かす発電機 菊池洋勝

→シヤツの袖にキヤメルとマツチ巻く hyuntoppa

荒梅雨や五百羅漢の忍び泣く 黒穂 2022

遂に泣くかにかまぼこを揚げて泣く 岡村知昭

湖は地球の涙梅雨出水 ゆりのはなこ

象牙の塔を売っている 雪上牡丹餅

若楓 次世代を仰ぐしなやかに はゆき咲くら

半夏生いつだっけ惚けるマダコ 日下晃

ツイッター不調怪獣牙を剥く とし

あつすぎてマウス握って寝落ちする みおうたかふみ

何度でもよみがへるなら蚊になるか ミカミ

カオナシのカオで空欄を埋めなさい 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

生きているにもかかわらず生きている缶に残った水を舐め

とる 草太朗

スパゲッティ上手に食べられなくなつて大人になれるな

つてしまうの 奥 かすみ

押しピンを刺されたままで色彩を徐々に失う卒業写真 奥

かすみ

真夜中にあなたの声は揺りかごで東の間の甘い夢に浸って
Hoca

街雀小虫追いかけて捕らえ居り在るべき様に吾項垂れる 何
となく短歌

寝室を変えても娘ぐつすりで眠れないのはわたしだったわ
凧ちひろ

どうやったって 解決しない 違和感ならば 逃げちゃ
Tomo

思い切り息をふきこむふうせんは満たされもせずしばみも
せずに 水の眠り

梅雨空で明日も雲に閉ざされる続く暑き日変わることもなく
元さん

てめえこのチェーン店系居酒屋で白飯ひとつたのめるかお
い？ モリマサ公

惑星直列は前座は駅長は蚊取り線香合戦の限りなく 石原
とつき

久々に電話をかけた泣いていたただうんうんとかえしてく
れた 比島アルト

これ以上好きが膨らまないように嫌いなところ数える馬鹿
だね 月色萌果

もう見えぬ背には翼があつたんだでないと進めないんだ私
夏野ネコ

貴女はガラスケースに入った大輪のバラ私は踏まれても咲
くかたばみの花 むくみんママ

しらぬまにあわいひみつはふえてゆきあぶくぶくはじ
けてみえた みさきゆう

久々に会った何年ぶりだろう結局話もできないなんて 短
歌初心者

ばらばらと画鋲は落ちて梅雨空はめくれたままでもうすぐ
明ける 蔭一郎

切り分けるたびに西瓜が匂い立つ黄色い実ならびつくりマ

ーク 宮原凱

「2円じゃ君の街までの1/10も行けないけれど 萩原ア

オイ

ひび割れを修復できる術はなく後ろ髪だけとりあえず切る

雪の空

前よりも華やかな色塗るようになったのきみの残り香のせ

い みや

「だから(好き)」も大事だけどあなたには「にもかかわら

ず(惹かれてしまう)」 snuggle

強くなる 打たれ傷付き泣きながら 褒められ撫でられ愛

されながら Tomoko

ただ泣きたい こんな真夜中があることを あの子はきつ

と知らないのだろう 路地裏のくじら

朝なんて来なくていいと願っても憎らしいほど正確な針

とびら

◆詩

誰かの哀しみを

死を

揶揄して

笑うものではない

(温(ニ))

◆作品評から

紫に灼けて爛れてリンデロン 片羽雲雀

〜皮膚科のおくすり 笑笑(とるばとる)

抱っこ拒否の猫を各自で用意せよ 抹茶金魚

〜用意完了。(背中を向けてます) (めたもん)

しらぬまにあわいひみつはふえてゆきあぶくぶくはじ
けてみえた みさきゆう

〜みさきさんのこの辺りの感じで詠まれる歌は好物です。
何とも言えぬ切ない感じが好きだったりします。(Born
Slippy(モンモン))

三叉路のどこから来たか麦藁帽 抹茶金魚

〜読んだ人まで迷子になりそうですね!

麦藁帽をかぶってる人物は、夏の日差しで顔の影が
濃くなっている表情がうかがえない感じがします。ミステ
リアスで面白いです。(森砂季)

Nothing, s gonna change my worldを切り裂くところが晴天
だ 藤井卓

〜(Nothing, s gonna…) はジートルズの「アクロス・
ザ・ユニバース」の引用と思われませんがそれを引き受ける
「…そこが晴天だ」の切れが心地いい。(月波与生)

ブラウザの戻るボタンに八百比丘尼 まつりぺきん

〜「八百比丘尼」のところに何を入れるか。できるだけ
作者の〈手〉は見せない方がいいのだけど人魚の肉を食べ
た「八百比丘尼」に〈手〉が見えるか、見えないか。(月波
与生)

夏なんてポンジスキーム二人乗り ツマモヨコ

〜「夏」二人乗り」に意味を持たせず言葉の重さを抜い
ている。「ポンジスキーム」は重い意味があるが知らなけれ
ばリズムのいい軽やかな言葉。バランスの妙。(月波与生)

梅雨冷に一万バレルの世迷言 岩瀬百

「二万バレル」が迫力があってよい。ちなみに「バレル」は188.987リットル。満タン5回分くらい。(月波与生)

何故にシエフは気紛れ半夏生 しまねこくん

「男心と秋の風、が元々の言い回しらしいけれど、バブルの頃は女心と…みたいな感じがあつたかな」シエフの場合は星の数とか、予約の取れない店のとか、気紛れは立ち位置が上の人たちに許されるのか。ん、極個人的に自分だけの気紛れを敢行したい、ローコストで(苦笑) (鷺沼くぬぎ)

木製であればぎりぎり風鈴か しまねこくん

「セツコ!それは木魚や(名犬 ぼち)